研究資料

政策提案



宮崎ひとすじ21年

安心と希望あふれる
宮崎の未来を

河野 こうの しゅんじ

62歳 現在

新たな成長のステージへ。

県民所得倍増へ!

安心と希望の社会へ!

社会基盤のレベルアップ!

私の決意!!

これまで国をも動かす政治力で財源を確保し、口蹄疫・コロナ禍からの復興や経済の早期回復を実現してきました。引き続き物価高や人口減少といった課題に挑戦し、国スポ・障スポや神楽のユネスコ無形文化遺産登録といった未来へのチャンスを活かして宮崎をさらなる成長へと導きます。

私の使命	山積する課題を解決し、安心と希望あふれる宮崎の未来を実現すること。
私の強み	これまでの「経験と実績」、国や関係団体との「強固な信頼関係」、そして「国をも動かす力」。

**蓄えてきた力のすべてを捧げ、
全身全霊で宮崎の未来を切り拓きます。**

新たな成長のステージへ。

◎もっと稼ぐみやざき戦略（目標：県民所得倍増）

◇「稼げる農林水産業」加速化プラン（目標：農業産出額4,000億円）

・生産性向上：大規模施設園芸団地の整備、肉用牛インテグレーションの形成
・人材確保・育成：みやざき版農業高専、営農指導体制強化、外国人材の安定確保
・基盤強化：共同利用施設等の再編、試験場強化、基盤整備・家畜防疫推進

◇地域産業成長戦略（目標：企業所得10%up）

・投資促進：地域産業クラスター計画、地場産業成長プランによる企業支援・誘致
・中小企業支援：新たなファンド造成による設備高度化支援
・産業人材育成：産業系高校の強化（工業専攻科検討）、DX・AX技術者の育成
・人材確保：新規高卒者への就職準備金支給、外国人材の安心・安定確保

◇新スポーツランドみやざき構想（目標：宿泊数100万泊増）

・大会・キャンプ誘致：大規模大会の誘致・定着、宿泊施設整備支援
・県内スポーツ振興：競技力向上支援、アスリート育成、スポーツ施設の機能充実
・新たな展開：プロチーム育成・支援、新サービス創出、スポーツのまちづくり

◇女性・若者×ミライプロジェクト（目標：都道府県ジェンダーギャップ指数 全国10位以内）

・とも活の推進、同性パートナーシップ制度の導入
・賑わいのまちづくり：歩いて楽しめる街並み整備、大型イベント誘致
・若者との協働：若者との意見交換の場、置県150年プロジェクト

◎くらし安心戦略

◇「ひなた安心生活圏」実現パッケージ（目標：公立病院医師 50人確保）

・中山間対策：商工会等による生活支援体制、交通空白解消、県立高校の維持
・医療・福祉：新たな医師派遣システム、障がい児・者の支援強化
・移住・交流：食や祭りのＰＲ強化、関係人口の拡大

◇こども・まんなか宣言（目標：出生数 6,000人台維持）

・子育て対策：子育ての経済的・身体的な負担の軽減、こどもの居場所づくり
・教育の充実：県立高校の学習・衛生環境等の整備
・チャレンジ支援：文化・スポーツのレベルアップ、リスキリング等の支援

◎県土高度化戦略（目標：総事業費 ４年間で6,000億円）

◇県土高度化ビジョン

・防災・減災：計画的な整備、一ツ葉有料道路の堤防化
・高速道路等：東九州道や中央道整備の総仕上げ、バイパス整備促進

◇交通・物流充実ビジョン

・航空路線：国際線の充実、国内LCC新規就航への働きかけ
・新幹線：ケーススタディを契機として早期整備に道筋
・新モビリティ：自動運転、MaaS、地域交通DX等の推進
・物流改革：県外物流中継拠点の整備、ラストワンマイル対策

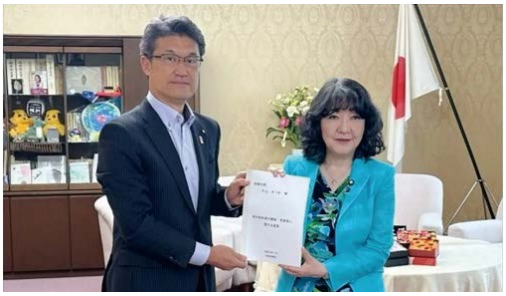
政策提案

1　私の想い

急激に進行する少子高齢化・人口減少や、長引く物価高騰、深刻な人手不足などにより、地域の活力が奪われ続けています。これらの課題に真正面から取り組みつつも、本県が単独で立ち向かうには限界があります。そのため、国や他の自治体と連携し、未来に向けて現状を変革し続けることが大切です。

これまで私は、国や各県とも率直に話し合える信頼関係を築きながら、全国知事会等を通じて政策の実現に努めてきました。例えば少子化対策。もちろん私一人の力ではありませんが、教育費の家計負担を下げるため国に働きかけ、高校無償化や小学校の学校給食無償化が実現しました。

新型コロナ対策では、世界的なパンデミックの中で県民の命を守るため、全国で初めて県独自の緊急事態宣言を行いました。その一方で、全国知事会の地方税財政常任委員長として地方の意見をまとめ、国とも協議を重ね、累次にわたる医療対策や経済対策に必要な予算を確保しました。今回の物価高に対する経済対策についても同様です。



こうした行動の裏には、「必要であれば国も動かす」という私の確固たる信念があり、知事として実績を積み重ねることにより、それを可能にする〈力〉を蓄えてきました。



安心と希望あふれる未来を築く上で、少子化や医療介護など避けて通れない課題があります。これまで４期16年にわたる県政の集大成として、これらの課題解決に道筋をつけ、宮崎県を「新たな成長のステージ」に進化させることが、私の最大の責務だと考えています。

2　私が目指す宮崎県の将来像

Ⅰ　時代の変化に対応した成長を実現し、県民所得を引き上げる

物価上昇や金利ある経済の中にあっても県民の皆様が豊かさを実感できるよう、宮崎のポテンシャルをさらに伸ばすことにより「もっと稼ぐ宮崎」を実現し、**県民所得倍増**を目指します。

デジタル技術の活用や温暖化への対応など時代の変化に合わせた地域産業の変革や、産業人材の安定的な確保・育成により、魅力的な農林水産業の創出や県内企業・産業の成長を後押しし、**農業産出額4,000億円、企業所得10％アップ**を目指します。

また、国スポ・障スポに向けて整備したソフト・ハードの基盤を最大限に活用し、スポーツの成長産業化により国内外から高く評価されるスポーツランドへとさらに進化させ、**延べ宿泊数100万泊増加**と地域の賑わいにつなげます。

さらに、**都道府県版ジェンダーギャップ指数全国10位以内**を目指し、若者や女性が自分らしく活躍できる社会環境づくりに取り組むとともに、賑わいと楽しみあふれるまちづくりを進め、人もまちも経済も元気にします。

Ⅱ　県民が将来への安心と希望を持てる暮らしを実現する

終わりの見えない物価高騰や人口減少・少子高齢化の進行により、若者、子育て世代、高齢者、中山間地域など多くの人がそれぞれの将来に不安を抱えています。そのような不安を払拭するため、国全体に関わる制度や仕組みであっても積極的に議論をリードし、地方の立場から変えていきます。

県としても、市町村や関係団体と連携し、医療・福祉や買い物、交通など暮らしに不可欠な基盤の維持に向け、例えば**公立病院への50人の医師派遣**など、新たな仕組みを構築してきめ細かな対策を講じることにより、安心して暮らせる生活圏の確立を目指します。

また、地域の宝であり、未来への希望であるこどもたちのため、子育てを社会全体で応援する環境を整え、**出生数6,000人台を維持**するとともに、豊かな心と確かな力を育む教育を実現するひなたの学び舎づくりを進めます。

Ⅲ　成長と安心の土台となる社会基盤をレベルアップする

産業の成長や地域の維持・発展には、道路をはじめとする社会インフラが不可欠であり、東九州道をはじめとする高速道路網整備の総仕上げを目指します。また、年々激甚化する風水害など自然災害から県民の命と暮らしを守る上で県土の強靱化も待ったなしであり、**社会資本全体で6,000億円規模**の計画的整備を進めます。

さらに、国内外を結ぶ航空路線の維持充実による交流ネットワークの拡大や、長年の悲願である東九州新幹線の整備、自動運転や交通DXといった新たな交通システムの導入など、未来の成長を支える基盤づくりを前進させます。

3　今後４年間の行動

Ⅰ　時代の変化に対応した成長を実現し、県民所得を引き上げる ～「もっと稼ぐみやざき戦略」

１）しっかり稼げる魅力的な農林水産業へ（「稼げる農林水産業」加速化プラン）

◆ 収益性と競争力の向上





▶デジタル技術等を活用した**大規模施設園芸団地を整備**し、生産効率を大幅アップ

▶露地野菜の大規模生産拠点を創出し、**食品企業との安定的な取引体制**を構築

▶2027年全国和牛能力共進会で５大会連続の最高賞獲得

▶新たに**肉用牛のインテグレーションを形成**し、繁殖・肥育の一体化による価格安定、繁殖基盤の強化を実現

▶2029年**「全国豊かな海づくり大会」**の開催を通じた水産業の振興

▶**浮き魚礁の増設**など、生産性の高い漁場を創出

▶海外の需要を踏まえた**輸出特化型産地を形成**

▶林業の収益力強化に向けた**スマート機械の導入や生産林のゾーニング**等の推進

▶**ふるさと納税と連動した本県農林水産物の商品開発やPRを強化**

◆人材の確保・育成

▶農業高校と農業大学校との一体的な教育体系の構築（**みやざき版農業高専の実現**）

▶**新規就業者への技術・機械・施設等の円滑な承継**を支援

▶**県とJAとの連携による指導人材育成体制を構築**し、経営・営農指導力を強化

▶**外国人材の安定的な確保・受入・秩序ある共生社会実現**のため県組織や相談体制を強化

◆ 基盤強化

▶農業・畜産・水産・林業などの**試験場の再編・整備**により、気候変動への対応や省力化・効率化に資する研究開発力を強化

▶地域の実情に配慮しながら、**共同利用施設や家畜市場等の再編・機能強化**を推進

▶農地・農業水利施設、農林道等の計画的な**基盤整備や家畜防疫体制**の強化を徹底

2）企業の経営力を高め力強い製造業を集積（地域産業成長戦略）

◆ 半導体をはじめとする産業クラスターの形成



▶国の**地域未来戦略に基づく企業支援・投資**の促進

▶**新たなファンドを造成**し中小企業の設備高度化を支援

▶良質な雇用の創出や産業の高度化等に資する**企業誘致の推進**

◆ DX・AX・GXの推進による生産性の向上

▶高校・大学・研修機関等の連携によるAIやドローンなどを活用できる**デジタル人材の育成**

▶産業DXサポートセンターの機能強化

▶DXによりビジネスの発展に取り組む企業への支援

▶省エネなどに関するコーディネーター企業等との連携による相談体制の強化

▶省エネなど地球温暖化対策を進める企業への支援の拡充

◆ 産業人材の確保

▶県内に就職する**新規高卒者への就職準備金の支給**

▶企業や大学等と連携し**産業系高校の教育環境を強化**（専攻科の設置等を検討）

▶**外国人材の安定的な確保・受入・秩序ある共生社会実現**のため県組織や相談体制を強化

▶高校生・大学生と地元企業のつながりを強くするインターンシップなどの強化

▶UIJターンを考えている若者の県内就職を支援するためマッチング機能を強化

3）スポーツを核とした新たな成長モデル（新スポーツランドみやざき構想）

◆「日本のひなた宮崎 国スポ・障スポ」

▶おもてなしの心あふれる大会運営や天皇杯獲得、本県の魅力発信

◆ スポーツ大会・キャンプ等の定期・通年化、全県化

▶**国際大会、国内大規模大会のさらなる誘致**、定着化

▶各国代表や日本代表、国内プロチームなど**トップチームの合宿の誘致**、定着化

▶宿泊者数増加の**効果を飲食や観光、買い物などにも波及**させる取組の実施

▶**宿泊施設の誘致や改修支援**など宿泊環境の向上

◆ 県内スポーツの振興、新たなステージへのチャレンジ



▶**アスリートの育成や競技力向上**など県内スポーツ団体の活動支援

▶県陸上競技場や県体育館など**スポーツ施設の更なる機能充実、地元市と連携したイベント等への活用**

▶県内プロスポーツチームの積極支援や**新たなプロチームの育成**

▶ドローンやローカル5Gなどを活用した**新たなキャンプ・合宿向けサービスの検討**

▶地元市と連携し県陸上競技場や県体育館を活用したスポーツのまちづくり

4）将来を担う若者や女性が生き生きと活躍する社会を築く（女性・若者×ミライプロジェクト）



◆ 女性が活躍できる環境づくり

▶女性も男性もともに活躍する**“ひなたのとも活”運動の展開**

▶**同性パートナーシップ制度の導入**

▶**県庁自身が女性活躍のモデル事業所**となるためのPTの設置（市町村と連携）

▶学校教育における女性のキャリア教育の充実（**理工系分野への関心づくり**など）

◆ 市町村や民間と連携した賑わいの創出

▶**県総合博物館等のリニューアル整備**など、人が集まる場所づくり

▶宮崎市高千穂通の「ほこみち整備」など、**回遊性が高く歩いて楽しいまちづくり**

▶「ひなたフェス」のような**大規模イベントの誘致・開催**や、ｅスポーツやアーバンスポーツなど**新たなイベントの検討**

◆ 女性・若者との協働

▶置県150年（2033年）を見据えたハード・ソフト事業の検討・推進

▶大学生など若者が知事に政策･事業提案を行う「ひなたねミーティング」の実施

▶**若者や女性のチャレンジを応援**する官民連携による支援制度の創設

Ⅱ　将来への不安を払拭し、安心と希望が持てる暮らしを実現する～「くらし安心戦略」

1）安心して住み続けられる中山間地域を築く（「ひなた安心生活圏」実現パッケージ）

◆ 暮らしを守る

▶買い物や通院などの生活支援のため、**商工会や自治組織、交通事業者などが連携して対応する仕組み**の構築

▶**県立病院（地域医療支援センター）から公立病院に医師を派遣する仕組み**の拡大

▶中山間地域の医療・介護サービスを維持する上で必要な**診療報酬や介護報酬の引き上げを国に働きかけ**

▶小規模自治体について**県による行政補完の仕組み**を検討

◆ なりわいを守る

▶**中山間地域の農林水産業への新規就業者の支援**と、ふるさと納税との連携によるPR支援などをパッケージ化

▶中山間地域の農業を守るため**営農支援組織の育成や鳥獣害対策を強化**

▶山林荒廃を防ぎ温室効果ガスの吸収源である森林を守るため**再造林を推進**



◆ 人や地域を守る

▶**中山間地域の県立学校の維持**に向け、学科再編など魅力的な学校づくりと併せて学校間連携などを検討

▶地域資源を生かし、交流人口拡大などに取り組む農山漁村を支援

▶「ふるさと住民登録制度」を生かした本県と県外の若者とのつながり維持・強化
▶空き家対策の強化など中山間地域への移住者向け住宅の整備
▶2028年神楽のユネスコ無形文化遺産登録の実現、神楽の保存・継承を通じた地域活性化

2）少子化の背景にある社会環境を変える（こども・まんなか宣言）

◆ 出産・子育ての精神的・身体的な負担の軽減
▶市町村と連携し、病児・病後児や土日の預かり保育など保育環境を拡充
▶男性による育児休暇の取得や、男性の積極的な家事参画“とも家事”の推進
▶子育て応援のため働きやすい職場づくりに取り組む企業への支援強化
▶こども食堂や放課後児童クラブなど、市町村と連携したこどもの居場所づくりの推進

◆ 出産・子育ての経済的な負担の軽減
▶大学などの教育費や学校給食、３歳未満の保育料負担の軽減を国に働きかけ
▶多子世帯を対象にした新たな支援施策の検討



◆ 教育環境の充実
▶県立高校について、特色あるカリキュラム編成や、衛生・空調・バリアフリーなどの施設整備を強化
▶奨学金返還支援制度を拡充（企業による代理返還支援、上限額の引き上げ）

3）厳しい状況に置かれている人々の希望を守る（安心・希望回復プログラム）

◆ 機動的・効果的な物価高対策の実施
◆ 障がい児・者とその家族に対する支援
▶短期入所施設など医療的ケア児・者とその家族に対する支援施策の拡充
▶福祉作業所（特にＢ型事業所）について積極的な支援を継続
▶発達障害など、こころに不安を抱えるこどもたちに対する取組の強化

Ⅲ　成長と安心の土台となる社会基盤をレベルアップする ～「県土高度化戦略」

1）県土高度化ビジョン

▶県土高度化に関する今後の整備計画（県土高度化ビジョン（仮称））の策定と事業化
▶一ツ葉有料道路のかさ上げによる堤防化など、津波対策のレベルアップ
▶東九州道の全線開通・複線化や中央道の整備など、県内高速道整備の総仕上げ
▶住吉バイパスや国道222号牛の峠バイパス、国道503号飯干バイパスなど整備促進

2）交通・物流充実ビジョン

▶国際路線の定期便化、大型化や国内LCC路線の拡大など、国内外航空路線の維持・充実
▶ケーススタディを通じた東九州新幹線の早期整備に向けた道筋づくりと国への働きかけ
▶自動運転やMaaS、地域交通DXなど新たな交通システムの導入推進
▶県外における物流中継拠点の整備や県内の共同配送網の構築など、物流のさらなる効率化を促進

プロフィール

昭和39年	9月8日	広島県呉市生まれ ― 実家は家具店
昭和63年	3月	東京大学法学部卒業(23歳)
昭和63年	4月	自治省入省(23歳)
平成 2年	6月	人事院長期在外研修(25歳) (ハーバード・ロー・スクールにて法学修士課程修了)
平成16年	4月	総務省自治税務局企画課税務企画官(39歳)
平成17年	4月	宮崎県総務部長(40歳)
平成19年	2月	宮崎県副知事(42歳)
平成23年	1月	宮崎県知事就任(46歳)

現在４期目

主な役職

○全国知事会地方税財政常任委員会委員長
○政府税制調査会特別委員
○九州地方知事会会長
○社会保障国民会議／有識者会議構成員

発行元
河野しゅんじ後援会

〒880-0056
宮崎市神宮東1-2-75

TEL. 0985-28-5050
FAX. 0985-28-5055
E-mail. info@kouno-shunji.com



公式HP・SNS　最新情報はコチラ

LINE　Facebook　Instagram　ホームページ　YouTube